

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ハートヴィレッジ老松
(ユニット名)	にじ
所在地 (県・市町村名)	岐阜県岐阜市
記入者名 (管理者)	市川 小夜子
記入日	平成 20年 2月 15日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念の最初に利用者様第一主義を掲げており、それぞれの利用者様が求めているものに対応したサービス提供を重視し、実践している。また、自分達で話し合い、作り上げる意識を持ち、オリジナル性の高い施設となるよう、業務にあたっている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに掲示し、いつでも目に入るようにしている。利用者様の訴えをどのように把握し、解決できるか、職員間で常に話し合い、連携を心がけ、理念を大切にしている。細かい配慮の気持ちを持ち、日常生活の中で、少しでも楽しみ、安らぎを感じてもらえるよう、レク、行事、ボランティア行事への参加を積極的に取り入れている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関に掲示し、来訪時見てもらえるように、利用案内時には分かりやすい説明を心がけている。運営推進委員会の中で積極的に参加を求め、地域の方、御家族との会話の中から理解してもらえるよう伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方の花壇を見せて頂いたり、散歩の際の挨拶を心がけている。また季節感のある飾りを玄関付近にも行い、施設内だけでなく、地域で楽しめるようにしている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や夏祭りに参加し、交流をしたりその他、白山地域の活動「ふれ合いの会」、自治会・新年会へも積極的に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民への参加は回覧板等を利用して、出来る事への参加は、協力をしているが勉強会等地域の方達はまだ、実施はしていない。		これからも話し合い取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	モニターの日中の廃止を試みたり、箸・湯のみ・茶碗を個人用にしたり、食事・配膳、おやつ作りなど工夫し、施設型より家庭的な雰囲気を出すように努めるように努力中である。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流を持つため、いろいろな行事に参加したりして、アルバム・老松便りなどでお知らせし、運営推進会議などにも発表している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者と協議しながら解決を図ってゆく。困難事例やリスクについても気軽に相談する。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、後見人を利用されている方が2名在住されており、おりにふれて理解するよう説明をしている。また、相談は受けるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設置し、委員会を開き、皆で検討し対策を練り意見交換、又勉強会をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	見学をされたり、入居時(前)には、十分説明を文書と口頭で説明している。解約時は今後の利用又は、他の施設等十分に説明をし了解を得ている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者家族の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。必要ならば、ケアプランの立案への取り組みをおこなって、ミーティング・申し送り等に活かしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	健康状態はその都度、連絡をしたり面会時に今の現状の説明をし、了解をいただいている。金銭管理は、毎月コピーをとり、各家族へ送付している。また、新聞を作成したりして目につく所に掲示している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居時、市長村窓口等相談できる所があることを説明しまた、入口等に掲示をしてある。アンケートを利用し、意見を頂いたりする機会を設けている。また、入口にご意見箱を設けていて、いつでも投函できるよう無人にしてある。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	ミーティング定期会議や申し送りノートで機会を設けている。職員間でのチームワークがよいため、率直な意見交換ができ問題点が把握しやすく、改善できた場合も確認しやすい。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の状態に応じて、パートタイムの職員を増員したり、必要な時間帯を把握して、補充できるよう連携をとっている。夜勤専門職の配置により、夜勤数を減らせるようにしている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動時にはできるだけ多数の意見を聞いた上で判断し、利用者様・他職員への影響がないように行なっている。		ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心掛けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の役職に応じた研修会等に参加し報告されている。	今後は、なるべく多くの職員が受講できるような機会を増やしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会、交流会への参加により良い部分を取り入れられるよう意識している	関連の事業所等と学習会や交流を持つことによりサービスの質の向上を目指したい。 他のグループホームへの見学や相互研修会での事例検討等を通して、事業所外の人材の意見や経験を活かして生きたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会話、意見交換の場を増やし、安心して働ける環境、意向を汲み取った環境を整えられるようになってきている。また、現場の雰囲気は明るく、チームワークよく業務に取り組んでいる。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	評価表を導入し、お互いの評価をできるように行っている。個別面談により、本人の目標を確認し、得意・不得意分野を把握しながら、今後の業務の関わり方、内容の充実度を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状況を把握するように努め、またご本人様に会って、思いや願いを理解できるようにしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が希望されていること、これまでの経緯について、ゆっくりと耳を傾け、この施設でどのように対応していくか、話し合っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、御本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談をする中で必要なサービスにつなげられるようにしている。(訪問介護など)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学していただき、本人が納得され入居される方向でお話しをしている。新入居された時は家族にできるだけ多く面会に来てもらいました、本人が落ちつくような物品を持ってきていただくようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るように場面づくりや声かけをしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に伝え、ご家族の思いも聞き、乍ら、本人を支えていく為の協力関係を築けるように心掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊など、家族と一緒に過ごすことをつとめている。毎日来設される面会者もある。		いろいろな行事に家族も参加していただけるように努めている
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人・友人に遊びに来ていただけるように、継続して交流が出来るようにしている。		散歩や行事等の時に馴染みの場所に出かけている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆で楽しく、過ごす時間、ティータイムなどの場面づくりに努める。職員も一緒になって会話を持つようにして、利用者様同士が円滑になるようにする。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了された方とも変わらない関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話において、把握に努めている。また、ご家族やご友人からの情報を得ることで、検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで、ご本人やご家族から聞き取っている。また、入居後も日々の会話の中で、少しでも多くの情報が把握できるよう努めている。		更に詳しい生活歴や、ライフスタイルを把握できるよう努め、プライバシーに配慮しながら、小さな事柄も収集しスタッフ全体で共有していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様、一人ひとりの生活のリズムを把握し、できる限りその方のペースで過ごしていただいている。		些細なことでも、その方の出来る事・わかる事を発見し、その力を発揮しながら、自分らしく暮らしていけるよう支援したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃からご本人やご家族の思いや、要望を聞き反映させるようにしている。職員間で、常に意見交換を行っている。		職員間での意見交換やモニタリング・カンファレンスをもっと多く行い、少しでも多くのアイデアを得て、本人本位の計画作成に努めたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の遂行状況や効果などを評価し、状態に応じて見直しを行っている。また、状況やニーズの変化に応じて、随時検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別介護記録に記入し、重要事項は口頭・申し送りで情報交換をしており、ケアプラン作成時には、それらの問題点が反映され、見直しへとつながっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の病院との連携がすぐ取れ、専門職との関わりが強い。残存機能保持ができるよう支援できている。整容に関して、利用者様・御家族の要望に応じて、理美容の手配を行い施設まで来てもらえるように対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	他部所との交流を通じて、定期的にボランティアの方、地域の保育園児との交流の場に参加している。消防訓練の定期的な実施、民生委員からご意見をいただいたりと地域との関わりを大切にしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前利用されていたケアマネジャーの方とは必要時、連携を取り合っその人のできる事の協力をおこなってもらっている。家族が見えない人の場合等相談し、代替をしたり理美容の訪問もお願いしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加をお願いしている。必要時相談し、支援をお願いしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、今までのかかりつけ医で良い事をお話し、希望されるかかりつけ医で対応している。受診時は家族の付き添いをお願いし、長時間にしなければ施設対応もケースバイケースで対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	関連医院との連携で受診ができ、指示・助言も受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の配置が、十分確保できていて日常の健康管理の把握がしっかりできている。夜間、緊急時にも素早い対応ができるような体制である。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院当日より家族と連携を取ったり、面会にうかがったりして状態観察につとめ入院先の相談員と連携をとり、退院許可が出たらすぐ対応できる体制である。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う意志確認書を作制し、事業所が対応できる最大のケアについて説明を行なっている。ケアカンファレンス等もうけて職員と話し合い家族に意志確認をしながら対応している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	バイタルの変化と症状を、常時目配り気配りを心がけ、見極めをドクターと密にして後悔のないようにする。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛ける		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会やミーティングの際に、職員の意識向上を図ると共に、日々のかかわり方をリーダーが点検し、利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者様が自分で決める場面を作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々の生活習慣に合わせ支援をし、また行事等日頃からも化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。理美容院の方に、希望にあわせてかっつや毛染めをしてもらえるよう、来設していただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と利用者様が同じテーブルを囲んで、食の進まない方を楽しく食事できるよう雰囲気作りを大切にしている。利用者様のコップにお茶を入れていただくなどの準備の一部を行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの好物を理解しており、またご家族に持ってきていただき、本人の様子や時間をみながらそれらを楽しめるように支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意の無い利用者様にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。 時間や週間を把握し、トイレ誘導することで排泄を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む人に対して、言葉掛けや好きな歌などによって一人ひとりに合わせた入浴支援を試みている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努力している。また、一人ひとりの体調、表情、希望などを考慮してゆっくり休息がとれるよう支援している。寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりする等の配慮をしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。お茶の先生にお茶会を行っていただくなど、利用者様の経験を発揮する場面をつくっている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する人によっては、小額の現金を持ってみえることで、安心感があり買い物で使用される。その方以外は本人・家族の了解を得て、預かっており外出時に利用される。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて、外出を行っている。季節を肌で感じてもらうよう、外出の機会を作って、戸外に出かけている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとにイベントをもうけ、外出の機会をつくっている。ご家族に外食・外出の協力を得ている。		ご家族との外出・外食、自宅宿泊をもっと行っていただけるよう、支援していきたい。本人の馴染みの所への外出を支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話されたいときには、相手先に施設から連絡し、施設に折り返していただき取り次いでいる。手紙のやりとりは本人直接手渡した、発送の手助けをおこなっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来設時には、自室へ誘導したり廊下のソファを利用してスペースの工夫をしている。お茶を出して、ゆっくり話して頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会を開き個々のケースごとに検討と対策を行っている。外部の勉強会に参加する機会が少ない。		外部の勉強会に参加し、勉強したことをホームに活かせるようにしていきたい。日々の申し送り等で、その日のケアを振り返り自覚しない、身体拘束が行われていないかチェックをしていけるようにしたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の人数が多い日中は、鍵をかけないように努めているが、夕方～朝方は職員の目が行き届かなく、やむを得ずかけるときもある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握している。夜間は2ユニットで1人の職員がみているので、モニターを使っている。(日中は使っていない)		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使うときに注意が必要なもの等に分けて管理をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のひやり・はつとを記録に残し、職員の共有認識を図っている。しかし、万が一事故が起きた時、事故報告書を作成し、今後の予防策について検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアルはあるが、全ての職員が定期的に行っているとはいえない。		月1回のケアカンファレンスで、応急手当のやり方などの勉強会をし、身につけたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認などを定期的に行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時、モニタリング・サービス担当者会議等家族と話し合える時間の時に、その人のもっている能力を説明して、自由に動ける行動の拡大に取り組んでいる事業所であると説明をして、理解を得られるよう努めている。		身体拘束委員会をもうけ、月1回程度職員と話し合っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色・様子等の変化がみられた時はバイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により看護師の指示を聞きま、必要時主治医と連携をとっている。		毎日のバイタルチェックを実施している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書をカルテにはさみ、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、または直接服薬介助をしている。また、処方や用量が変化されたり本人の状態変化がみられるときは、看護師や主治医との連携を図れるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ繊維質の多い食材を取り入れたり、水分を多めにとってもらい、また好き嫌いのないよう食べていただくよう声掛けをしている。体操等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり介助を行なっている。就寝前は義歯の洗浄を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。栄養士による献立にて、栄養摂取量を把握している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアル作制をし、全職員で学習して予防・対策に努めている。また、手洗いは目の届くところに貼り利用者とともに実施するよう心がけている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎日漂白し、食器類は乾燥機の使用をして清潔に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を生けたり、ベンチを置いたりしている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、心地よい音楽を流せるよう有線の取入れをしている。窓の外を眺めて、季節感をあじわってもらっている。廊下にはソファを置いて気の合った利用者の方たちが利用されている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や枕を使って頂いたり、家庭で使用していた家具を持ち込んでもらっている。また、家族の写真や好きな絵等を飾って少しでも居心地よく過ごせるようにしている。		ベットは備え付けのものであるため今後、検討したい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	寒がりな方、暑がりな方、個々に合わせて温度調節しており、起床時の空気の入換え、必要に応じて換気扇を使用したりとまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体はバリアフリーになっており、躓いて転倒の内容にたっている。また、車椅子の方も自力移動ができる。歩行不安定の方は廊下に手すりが取り付けられてあり、転倒しないよう配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室やトイレ、居室を分かりやすく明示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節にあったお花、色とりどりに取り入れて目の保養・季節を感じていただきながら過ごせるよう玄関にベンチを置いている。市内で車通りが多いため、全員の方が過ごすのは困難である。		お花の種や苗を利用者様一人ひとりが持っていただき、毎日の成長(お花)を楽しむようなガーデニングが出来たらと思う。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は、市内の中心部にあるという立地条件の良さから、利用しやすく、住み慣れた環境を変えることなく生活を送ることができます。そのため外出、外泊等家族との交流を大切にでき、安心感を与えられる場所です。岐阜駅や、柳ヶ瀬に近い買い物に出やすいことも利便性の高さの1つです。近くに保育園、小学校、公園があるため、自然に触れながら園児との交流や、小学校のイベントに参加する機会を出来るだけ多く取り入れることで、四季の移り変わりを感じながら、地域との交流を大切にすることができます。また、関連機関が整形外科であるため、医療面での連携をスムーズに行うことができます。リハビリにも力を入れているため、専門職によるリハビリが残存機能の保持・向上につながっています。職員間での意識も高まりレク、生活リハビリを日常生活の中に積極的に取り入れております。